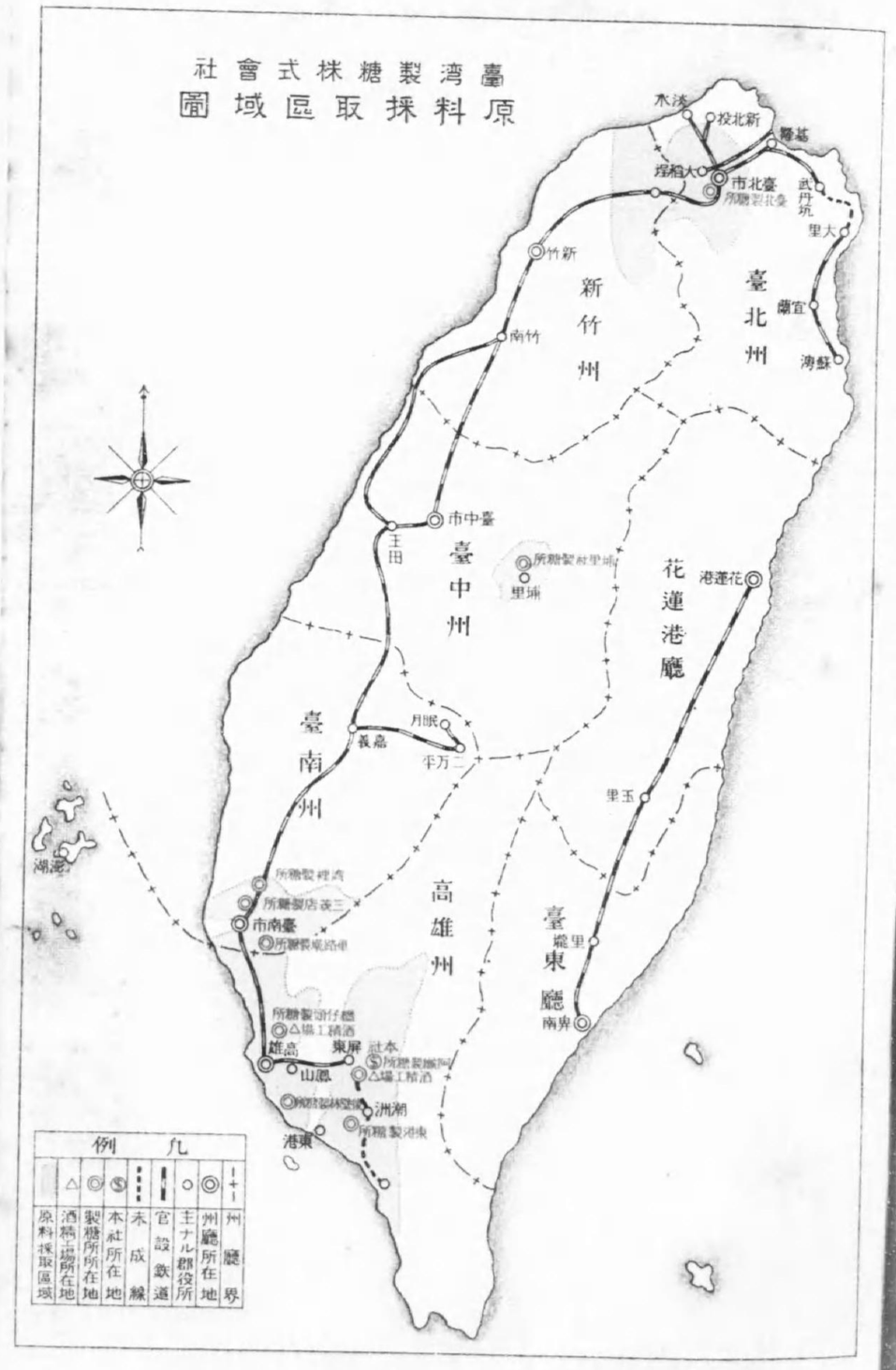
特217
271

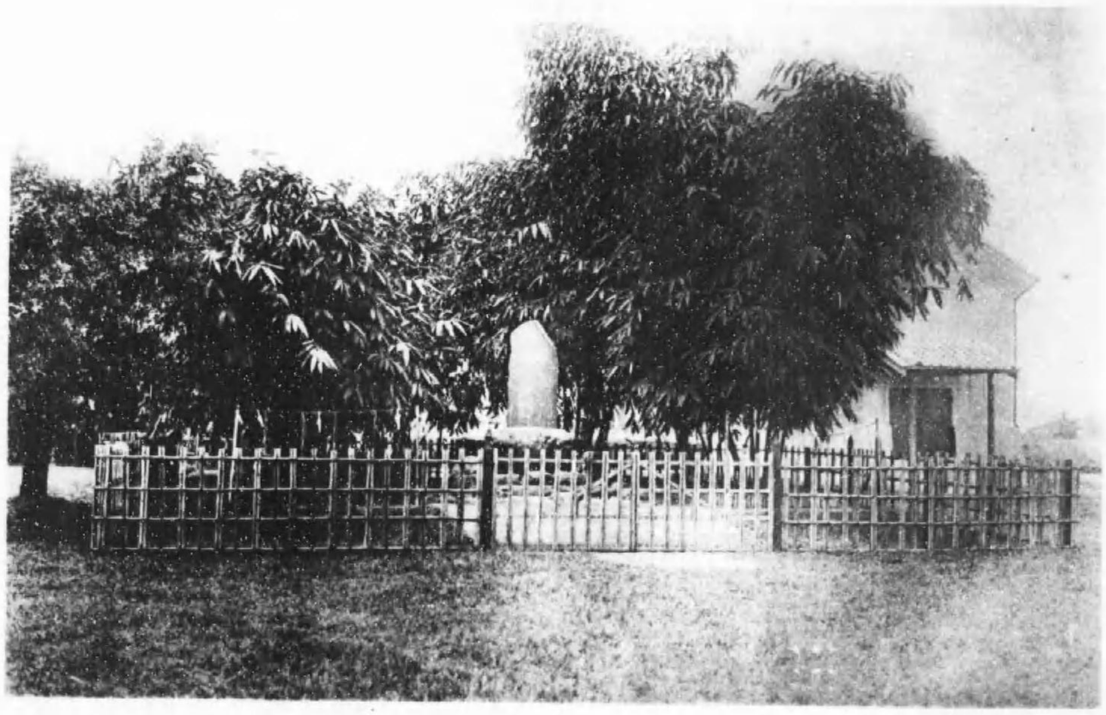
# 事業沿革之概要

臺灣製糖株式會社

始

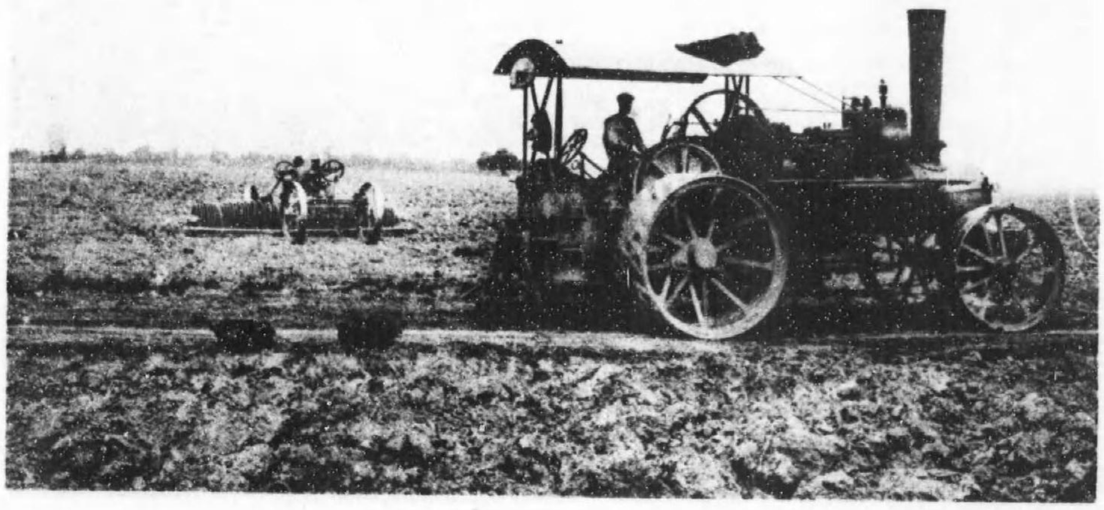
# 臺灣製糖株式會社
# 原料採取區域圖



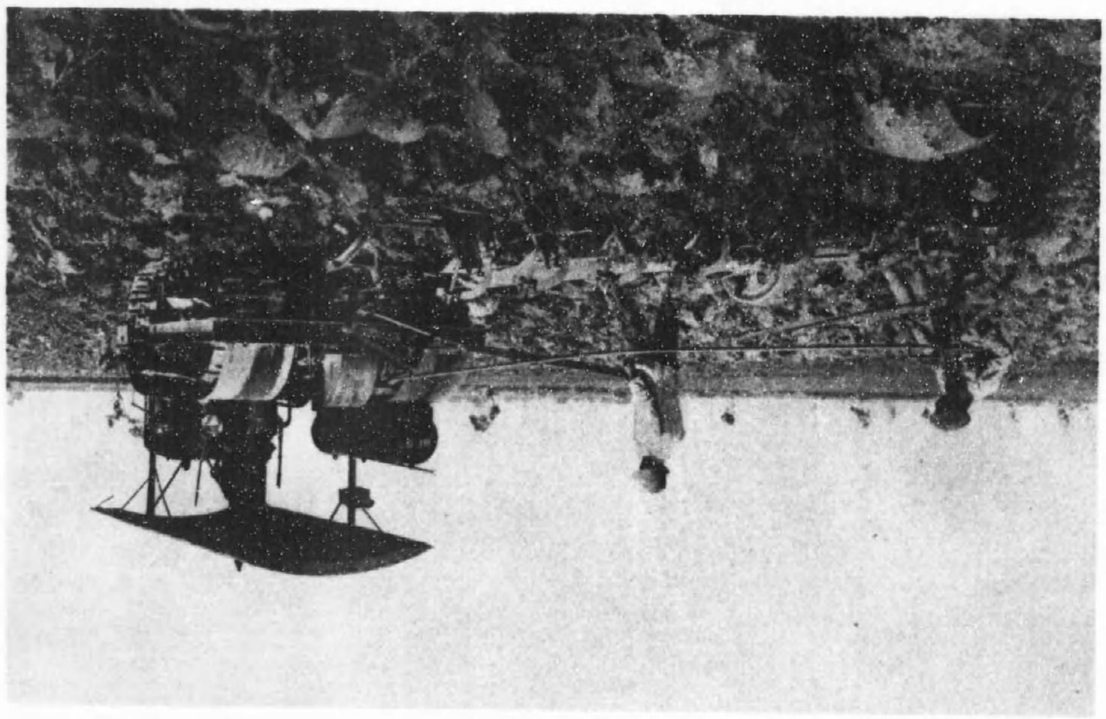


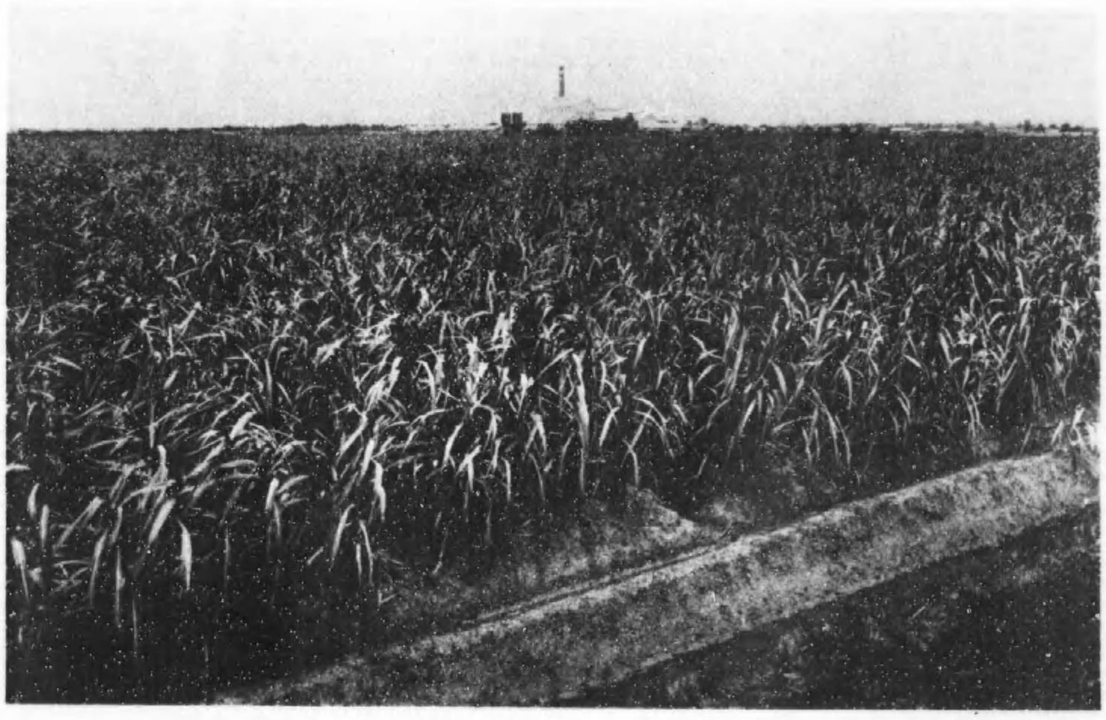
祥瑞の竹念記啓行

社　　本



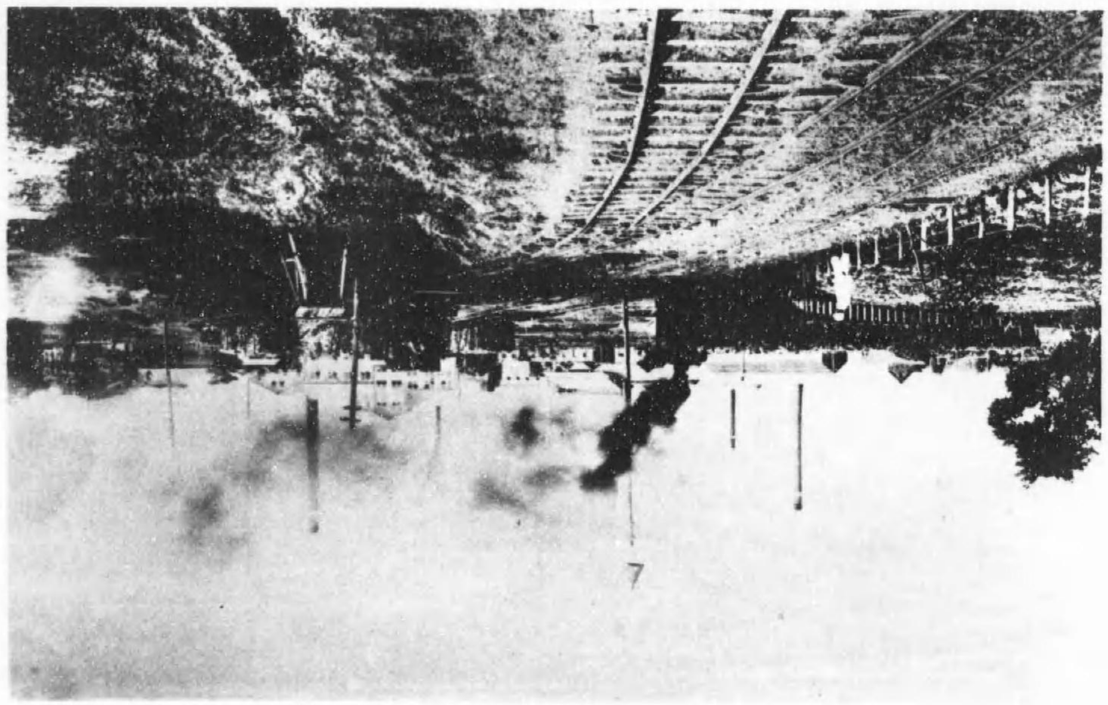
蒸　汽　鋤



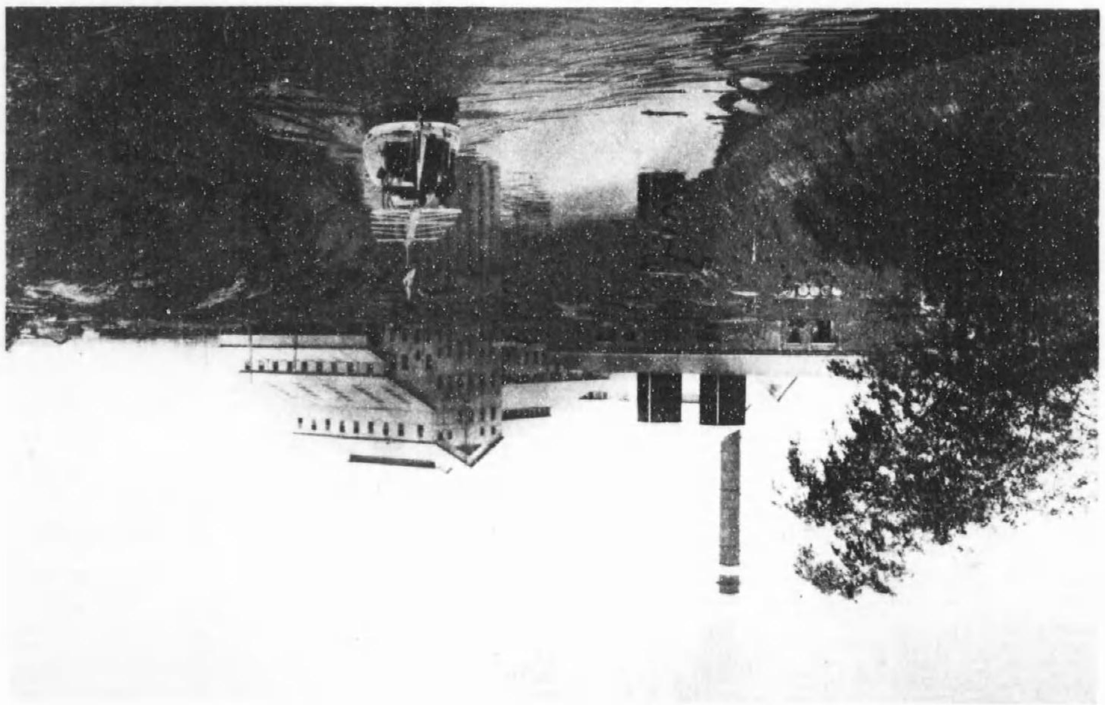


（一 其） 園 蔗

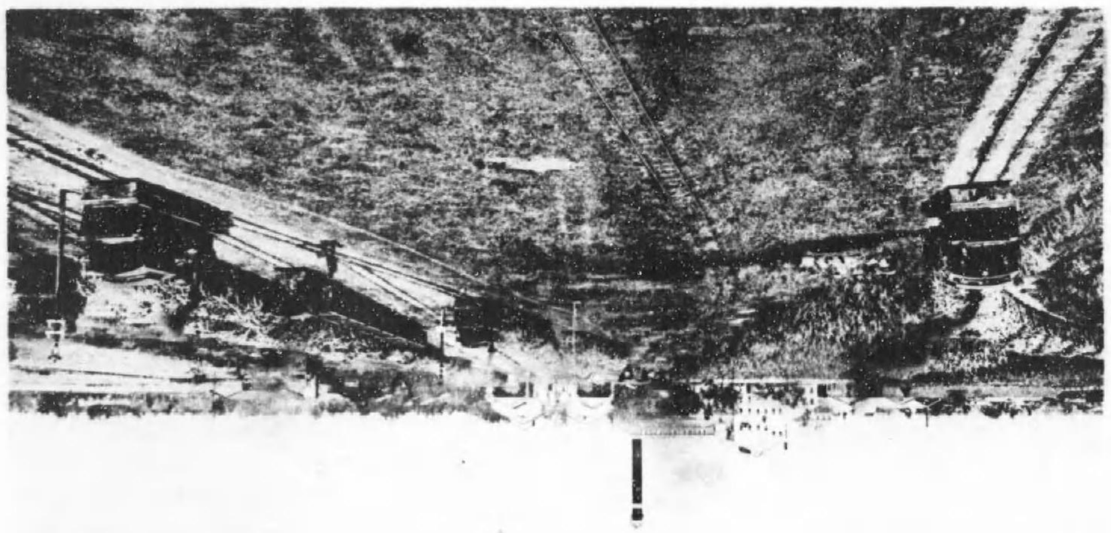
蔗園（其二）



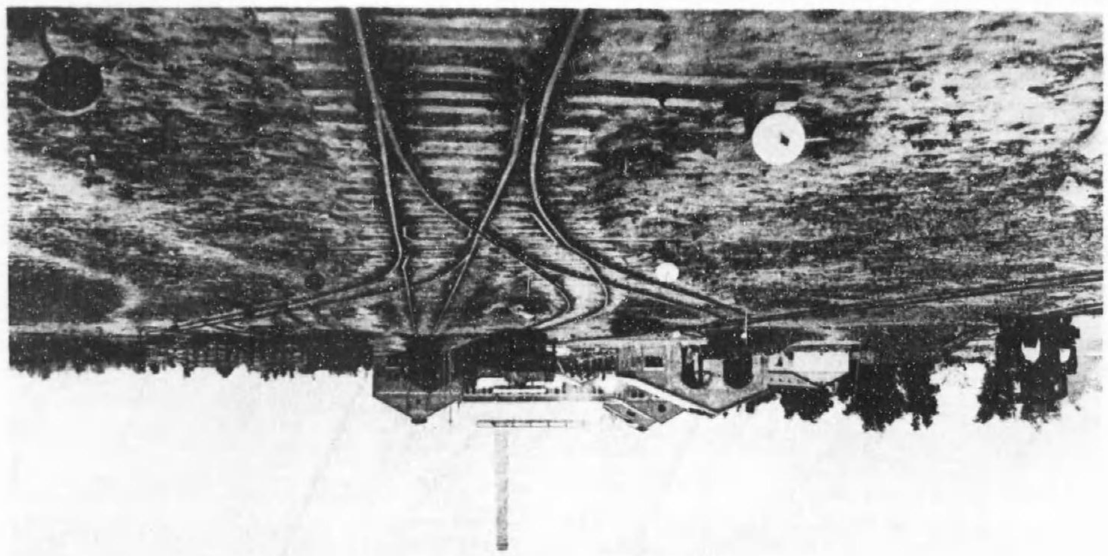
島工頭仔橋



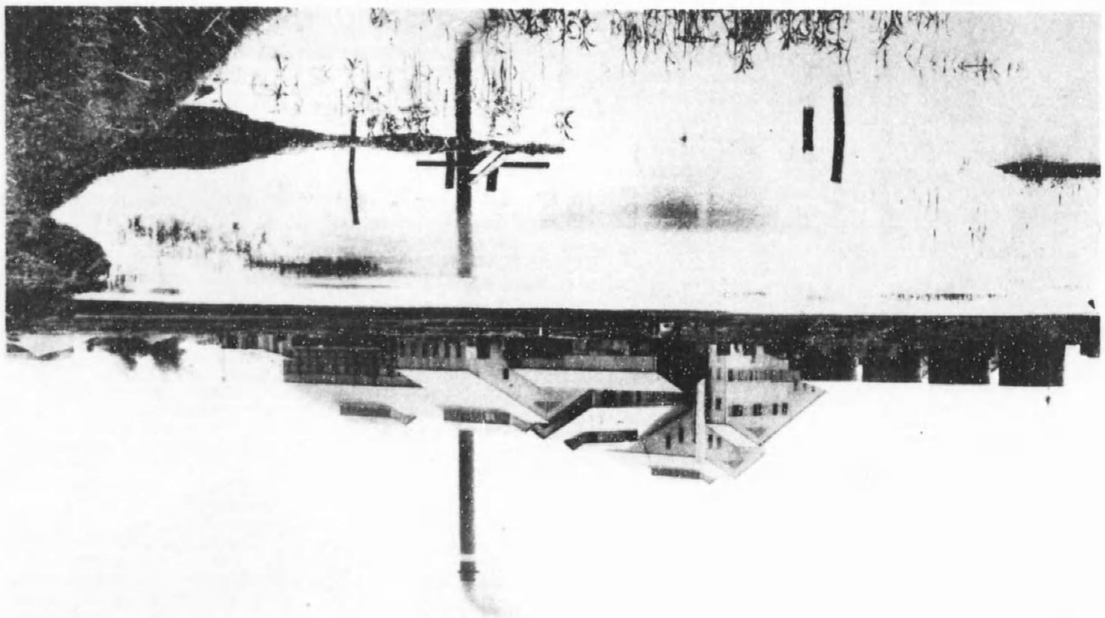
場　工　林　壁　後



島　工　線　厨

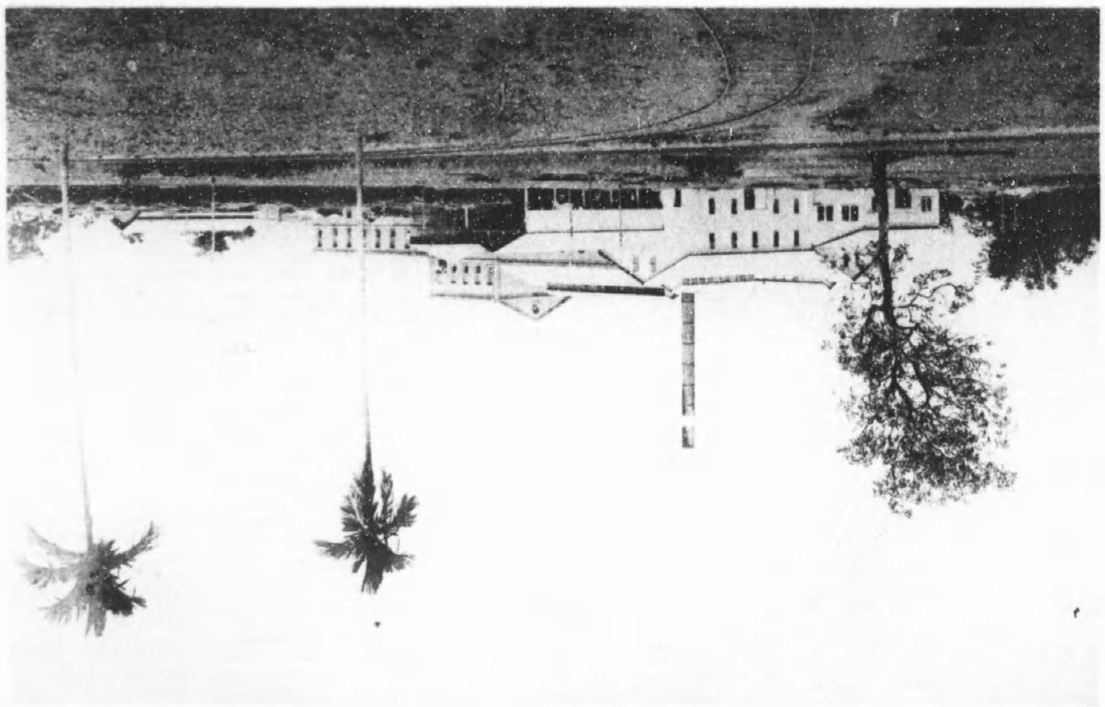


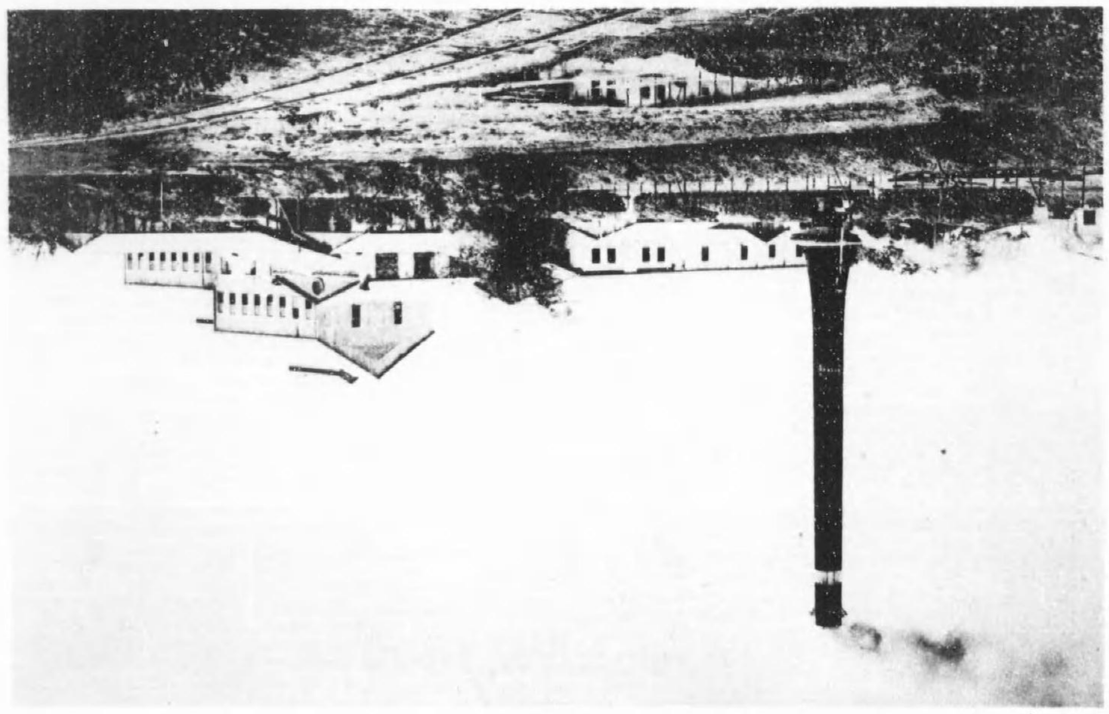
島　工　港　東



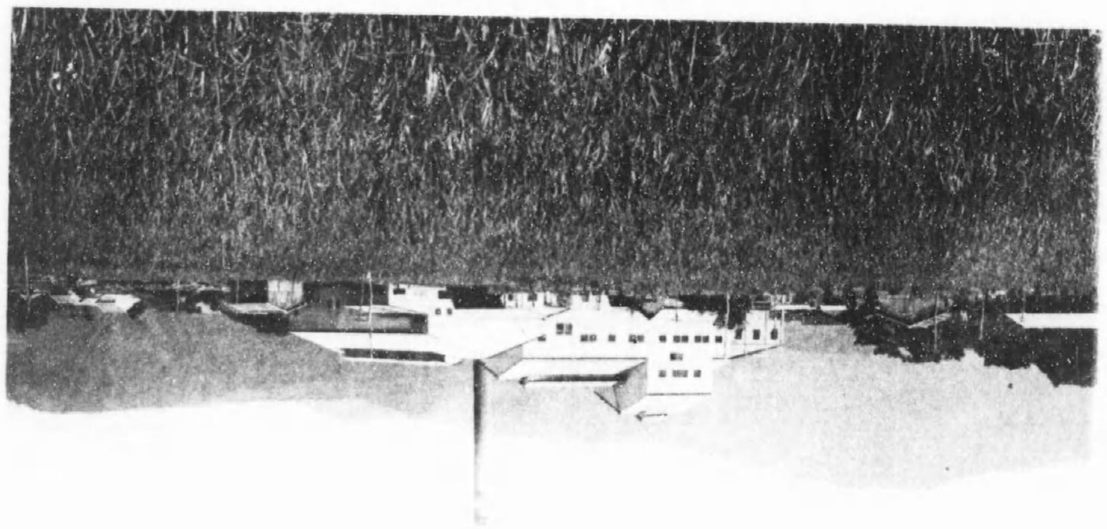
電　器　製　工　營

島工概觀

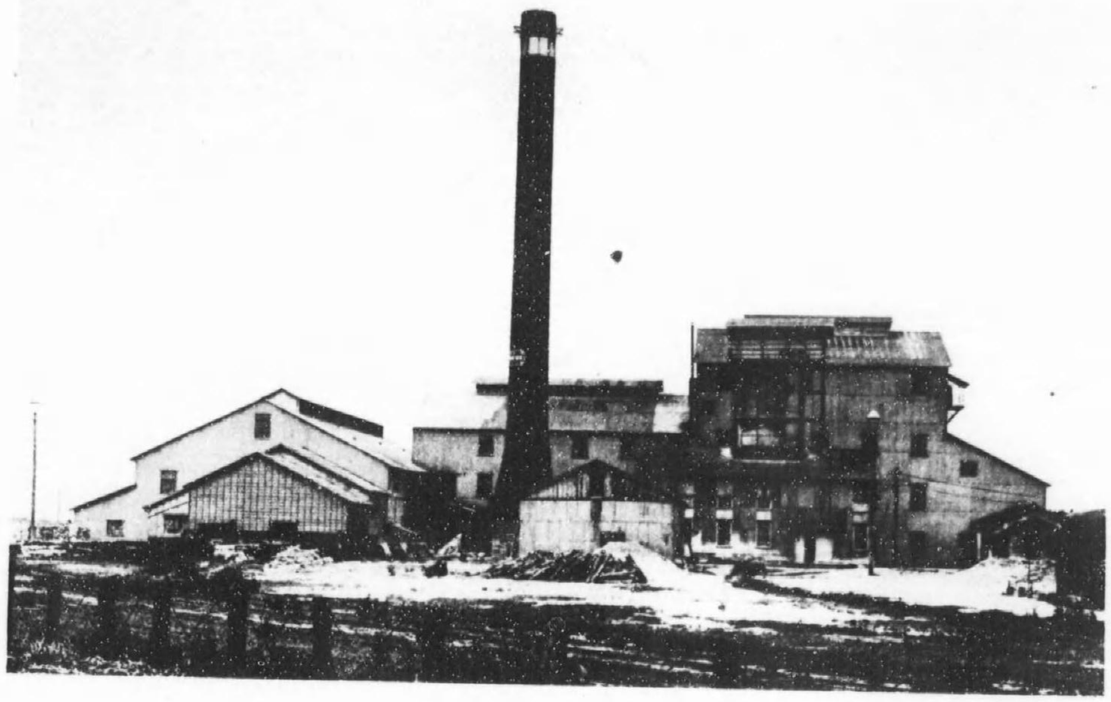




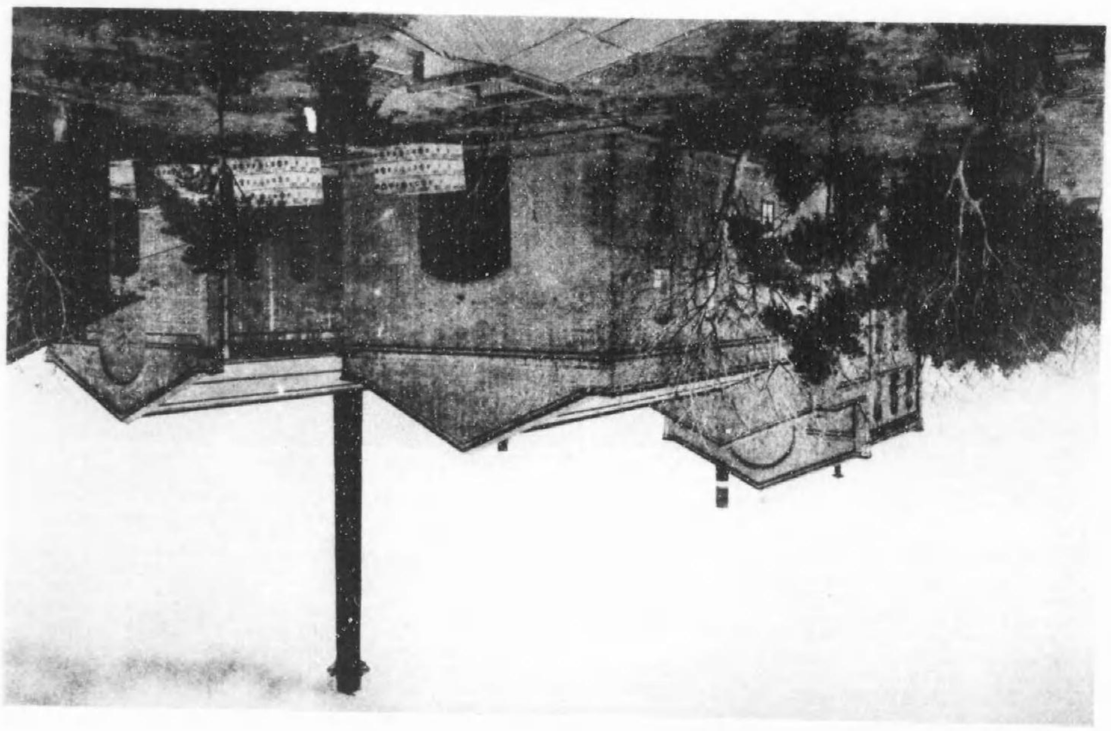
島　工　所　景　三



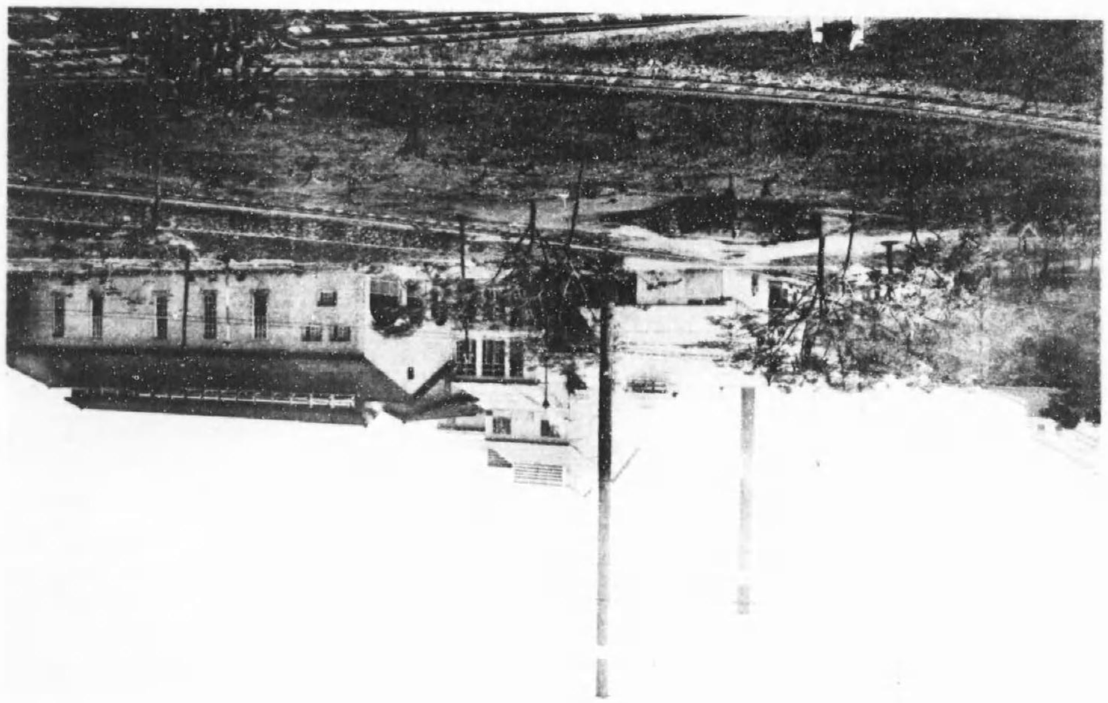
船工社用舶



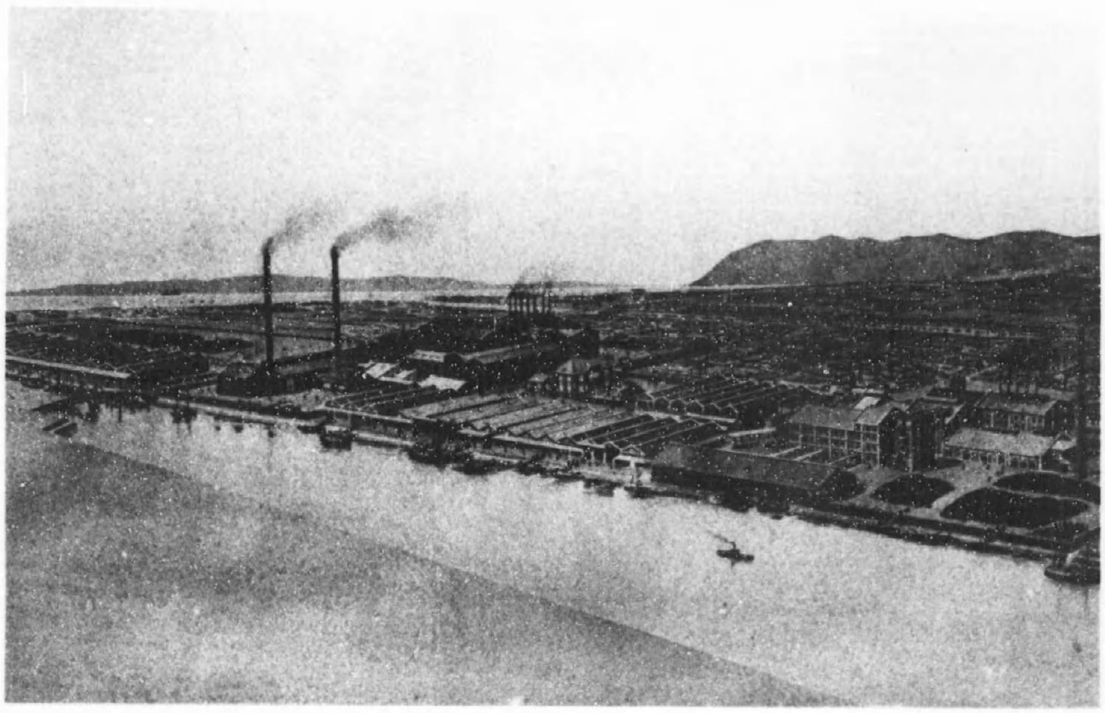
臺北工場



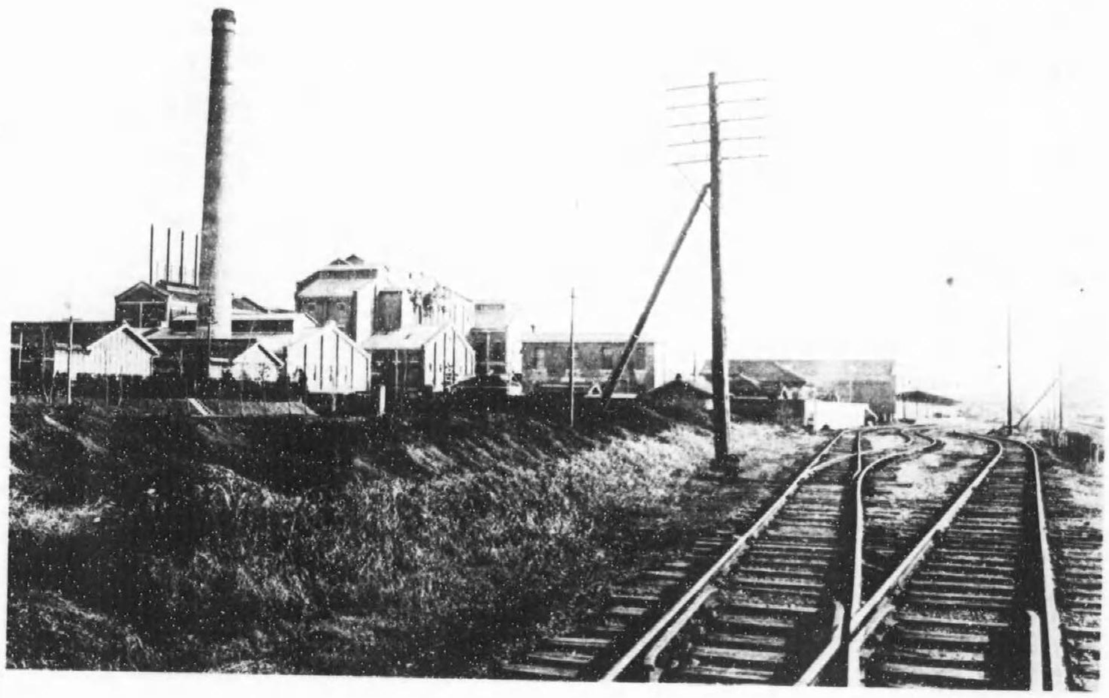
海工精河頭仔橋



台 工 糖 酒 廠 廠



神戸精製糖工場



九州精製糖工場

目次

第一　皇太子殿下行啓記念（屏東御休所竹の瑞祥）……一
第二　事業の概要……四
位置……六
土地及農場……八
水利……一一
工場……一五
道……二二
鐵……二四
製品の販賣……二六
雜事……



昭和二・九・二二 帝國圖書

第三　沿　革……二七
第四　役員及幹部員……四九



# 第一　皇太子殿下行啓記念

## 屏東御休所　竹の瑞祥

大正十二年四月二十二日　今上陛下が未だ　皇太子殿下におはせし頃忝なくも臺灣屏東街なる當會社へ行啓あらせられ給ふに當り豫て御休所に充て奉らんとて柱は竹、屋根は茅のいと清楚なる小亭を造りまゐらせしに不思議にも行啓數日前其の竹柱より青々たる新芽を發したり觀る者皆之を瑞祥とし只管行啓の御日を待ちわび奉れり當日圖らずも殿下には此の瑞祥を御覽せられ　畏くも御手を竹柱に觸れさせられ御嘉賞あらせられ給ひにけるぞ光榮の極みなる當社は此

の瑞祥を永久に傳へんため如何にしても之を育成せんと爾來心を碎きしに幸に今日の繁茂を呈するに至れり

抑も此の竹柱は竹に名高き臺中州竹山郡の産にして蔴竹と稱し伐採後四十餘日を經たる事とて色澤共に清新のものにはあらざりしに此の奇瑞を表したるは是れ偏に　殿下御盛德の致す所にして恐れ多くも　皇室の御繁榮を壽き奉る瑞兆なりと感激の餘り行啓記念碑を建て以て此の瑞祥を不朽に傳ふる事とはなしぬ

大正十五年十月、この瑞竹林の向つて左端の一株に花を開き、十二月の末つ方、花盛りとなり、其後結實して、何時しか地に落ち、世にも珍らしき實生の若竹生ひ出でぬ、族生せる實生の内の數十本を、瑞竹林の後方



に移植したれば、遠からず第二の瑞竹林となり出づべし

# 第二　事業の概要

臺灣製糖株式會社は資本金六千參百萬圓にして明治三十三年の創立に係り本邦に於ける分蜜製糖會社の嚆矢たり本社を臺灣屏東に出張所を東京に設け砂糖の製造販賣を主たる營業の目的とし又副業として酒精を製造す株式の總數は百二十六萬株此内本株式五十九萬六千株新株式六十六萬四千株にして内宮内省御所有株三萬九千六百株あり

甘蔗を原料として原料糖及び直接消費糖を製造する粗糖工場は臺灣南部に八箇所中部に一箇所北部に一箇所ありて此内耕地白糖を兼營



するもの北部及南部に各一箇所あり又製糖の副産物たる糖蜜を原料として酒精を製造する酒精工場は臺灣南部に二箇所あり原料糖を再製して精白糖を製造する精糖工場は神戸市兵庫及福岡縣久留米市外荒木村に在り

臺灣に於ける社有の土地三萬町歩餘に上り社線鐵道の總延長四百四十八哩にして目下臺灣全島に於ける分蜜製糖會社と其製糖能力は合計十有二會社三萬九千二百八十米噸なれば我社能力九千七十八米噸は實に總能力の約四分の一を占め其の分蜜糖年産額約二百萬擔(一擔は和百斤)にして外に酒精約五萬石を製造し尚内地工場にありては更らに百數十萬擔の精製糖を内外市場に供給し得るを以て資本實力共

に東洋に於ける最大製糖會社たり

## 位置

臺灣島中夙に製糖の本場を以て著名なるは其南部即ち臺南高雄の兩州下と爲す我社は此兩州下に廣大豐饒の原料採取區域を占有し別に臺灣中部及北部にも採取區域を併有せり臺南高雄兩州下に於ける採取區域内の田畑總面積は無慮十二萬甲(一甲は我九反七畝二十四歩に當る)にして其大部分は島内無比の甘蔗栽培好適地なれば我社所有の蔗園以外土着農民の耕作蔗園も例年二萬町歩以上に上るを常とせり是等農民の耕作せる甘蔗は會社農民間の契約關係に依り悉皆我社の製糖原料に提供せらるゝなり



當社南部區域内は畑地多く水田少なく甘蔗の水田に栽培せらるゝ場合多からざるを以て米價の變動に伴ひ甘蔗植付けに及ぼす影響激しからず之れ當區域に於ける一特長なり

兩區域内に於ける各工場の地位は孰れも臺灣隨一の良港たる高雄に近接し其狀恰も高雄港を我區域内に包擁して各工場を豫測配備し鐵道を以て之れを連結せるが如き自然の形勢を成せり就中後壁林工場の如きは高雄港灣に接續し其直下より舟揖を艤して製品を運送し其艀により直に本船に荷役し得可き至便の位置に在り

斯の如く陸海至便の好位置を享受せるもの臺灣島内其類例を見ざる所にして此運輸上の利便より運搬費の輕減せらるゝもの亦尠少にあ

らざるなり

埔里社區域は海拔一千五百尺以上の高地に在り四周繞らすに高山を以てし氣候佳良にして風害少なく遠く山間に僻在せるを以て甘蔗病蟲害の侵入發生を防遏遮斷し得可く高地苗圃として理想的の條件を具備し甘蔗農業上缺く可らざる要地たり

又北部臺北區域は基隆港を控へ輸出入の便と石炭の產地なるを以て此に耕地白糖の裝置を兼備せり

## 土地及農場

原料甘蔗採取區域制度は臺灣總督府の設定せる所なるも甘蔗の耕作を爲すと否とは農民の任意なれば製糖會社が全部の原料を農民の供



給に仰ぐか如きは決して萬全の策と謂ふ可からず我社は創業當時より既に自作蔗園を所有するの有利得策なるを看破し直ちに橋仔頭附近の土地を買收せるは沿革記事中に記せるが如し

我社は常に當初の此方針を以て進行し有望の土地を買收するに努めたる結果昭和二年の始めに於ては其所有地(鐵道敷地を除く)三萬甲を超過するに至り且早くより其買收に着手したる故に其の價額も低廉にして之れが爲めに原料供給上の安定を得たるのみならず地價騰貴の結果時價に換算せば其の財產上に於ける增加益は頗る大にして到底他の追隨を許さゞる處なりとす

又我社は此所有地內に於て各製糖所に農場を設置し自作乃至特別契

約の小作法に依り甘蔗の栽培を奬勵せり其主要なるを後壁林、阿緱、橋仔頭、埔里社の農場とし規模の最も大なるを後壁林農場と爲す

後壁林農場　後壁林製糖工場所在地に在りて其面積四千三百甲あり地勢概ね平坦にして能く大規模の耕作に適し地味肥沃にして又縱横灌漑の便を有せり一部灌漑不能たりし土地に對しては亦强力の灌漑喞筒を裝置して全部灌漑設備を完成せり又重粘の土壤に對しては輕鬆なる河砂を運搬して壤土となせる甲數千二百餘甲に及べり我社は卒先此農場に數臺の英國製スチームプラウ(蒸汽鋤)を應用して深耕を實施し改良蔗苗を選擇栽培せり

阿緱農場　阿緱東港兩製糖所區域を併せ面積七千六百餘甲を農場として經營せり本農場は毎年の蔗作二千六百五十甲餘に達し將來水利及土地改良施設の完成と共に益々其の利用を擴張し得べし

橋仔頭農場　橋仔頭區域內に在りて青埔庄及牛埔溪に完全なる喞筒灌漑設備あり之れ亦有望の農場たり

埔里社農場及開墾地　埔里社區域內に在りて健全なる蔗苗を栽培採取するに適す農場及開墾地の面積は約千二百甲なり

## 水利

我社は前述の如く原料生産の基礎を堅固ならしむる爲め土地の買收農場の建設等に力を盡すと同時に廣大なる我社有地の生産能率を增進すべき根本的施設とし且採取區域內の甘蔗耕作適地を更に擴張す

べき方策として夙に灌漑排水其他土地改良的水利調査を行ひ大正四年以來工事を實施し今や其施行地は合計二萬九千五百九十四甲に達し之れに要したる經費は金百九拾餘萬圓を算せり

右工事施行地の内最新式電動揚水機による灌漑地は九箇所此面積六千四百七十餘甲、新設貯水池によるもの四箇所一千餘甲、排水工事による改良地一萬三千餘甲を占む尙之を所有別とすれば總施行地の内我社有地一萬四千七百七十七甲、賃耕地二千十三甲外に一般民有地一萬二千八百四甲なりとす

是等工事施行の結果は甘蔗收量に於て施行前に比し三割乃至五割の增收を見るに至れり、斯くて我社有地の價値を高め同時に區域内民有



地の改善に資し所謂地方開發、農産增進の實を擧げ土地利用の範を示し原料供給の根本的安定を計れるものなり

前記施行地の内最近竣功したるものに左記二峰圳及力々溪灌漑工事あり

二峰圳灌漑工事及力々溪灌漑工事　本工事施行地は本社阿緱、東港兩製糖所原料採取區域に屬し從前乾燥不毛の原野及利用低級なる畑地併せて前者は二千五百甲後者は約千五百甲の大集團地にして其の水源前者は蕃界ライ社溪後者は力々溪の地下水及地上水を取入れ延長各一里餘の導水路を以て之を灌漑地に供給す

二峰圳灌漑工事は六拾五萬圓餘の豫算を以て大正十年五月之に着手

し同十二年五月竣功通水せり本工事中蕃地内水源及導水路工事は主として蕃人を使役し其延人員六萬一千七百九十三人に及べり

力々溪灌漑工事は五拾六萬圓餘の豫算を以て大正十二年九月工事に着手し同十三年十二月之を竣功せり本工事も亦蕃地水源導水路工事は蕃人を使役し其延人員六萬四千七百六十九人に達せり

兩灌漑地域内は當社開墾許可地及所有地にして開墾は既に完了し農場として耕地整理、農村建設等の諸施設をなし尙土地改良の目的を以て何れもスチームプラウ(蒸汽鋤)を使用し墾成地の深耕を行ひ灌漑利用と相俟て原料甘蔗の栽培と食料穀菽の增殖とを圖り由之南部臺灣に於ける乾燥不毛地開拓の一新紀元を劃せり



## 工場

臺灣に於ける粗糖工場酒精工場並に內地に於ける精製糖工場の細別內譯左の如し

### 橋仔頭第一工場　所在地高雄州楠梓庄

一日原料壓搾能力六百五十英噸

本邦に於ける分蜜製糖工場の權輿にして我社創立勞頭の建設工場たり主要の裝置機械は英米兩國の製作にして本邦製の機械をも併用し明治三十五年一月十五日操業運轉を開始せり

### 橋仔頭第二工場　所在地同上

一日原料壓搾能力四百米噸

工場は全部鐵骨の建築にして米國製の機械を裝置し明治四十一年一月以來運轉操業せり

**後壁林工場**　**所在地高雄州小港庄**

一日原料壓搾能力一千米噸

全部鐵骨の工場に米國製の機械を裝置し明治四十二年一月以來運轉操業せり

**阿緱工場**　**所在地高雄州屏東街**

一日原料壓搾能力三千米噸

明治四十一年十一月一部(能力一千二百噸)の運轉操業を開始し爾後更らに增設工事に着手し四十三年十二月を以て完成せり建築は全部鐵



骨裝置機械は米國製にして本邦に於ける最大分蜜製糖工場なり

**東港工場**　**所在地高雄州林邊庄**

一日原料壓搾能力七百米噸

大正九年六月建設に着手し大正十年三月竣成作業を開始したるものにして主要機械は內地製なり

**車路墟工場**　**所在地臺南州仁德庄**

一日原料壓搾能力千二百米噸

明治四十三年十一月運轉を開始す建築は全部鐵骨主要機械は米國製にして大正十五年耕地白糖の裝置を兼備せり

**灣裡工場**　**所在地臺南州善化庄**

一日原料壓搾能力百八十英噸

明治四十二年十月合併に依り舊臺南製糖株式會社より繼承し爾來漸次裝置機械の改善を行ひ完備の工場と爲せるものにて裝置機械は米國製及獨逸製なり

**三崁店工場**　**所在地臺南州永康庄**

一日原料壓搾能力八百五十英噸

明治四十五年一月合併に依り怡記製糖株式會社より繼承せるものにして主要の機械は英國製なり

**埔里社工場**　**所在地臺中州埔里街**

一日原料壓搾能力三百英噸



大正二年七月一日合併に依り埔里社製糖株式會社より繼承せしものにして主要機械は獨逸製なり

**臺北工場**　**所在地臺北州臺北市**

一日原料壓搾能力五百英噸

大正五年九月臺北製糖株式會社と合併に因り繼承せしものにして其後改築を加へ耕地白糖製造の裝置を兼備せり

以上十工場能力合計米噸換算九千七十八噸なり

**神戸精糖工場**　**所在地神戸市兵庫東尻池村**

一日精糖製造能力三百三十英噸

第一、第二兩工場あり第一工場は明治四十四年十二月買收に依り神戸

精糖株式會社より繼承せしもの又第二工場は大正五年の新築に係り大正九年に擴張工事を行ひ其の機械設備は最新式のものなるが更に大正十五年に大改良工事を加へて一層完備せる工場となり蓋し我國精糖工場中の白眉たるものなり

## 九州精糖工場

**所在地福岡縣三潴郡荒木村**

一日精糖製造能力一百英噸

大正九年建設に着手し大正十年八月竣成操業を開始せり其機械設備は最新式のものにして其製品は品質優良の好評を博せり

## 橋仔頭酒精工場

**所在地高雄州楠梓庄**

一箇年の酒精製造量一萬八千石



我國糖蜜酒精工場の嚆矢にして明治四十一年四月操業を開始す裝置機械は獨逸製なり

## 阿緱酒精工場

**所在地高雄州屏東街**

一箇年の酒精製造量四萬石

明治四十四年六月操業を開始す裝置機械は獨逸製なり

前記の各製糖工場は共に孰れも堅牢なる建築と優秀なる機械裝置を兼備せるも就中橋仔頭第二工場、後壁林工場、阿緱工場、車路墟工場、臺北工場の如きは特に極めて堅牢なる鐵骨工場にして猛烈なる颱風にも充分堪へ得る建築なるのみならず其裝置機械の大部分は有名なる米國ホノルル鐵工會社の設計に基き我社多年の實驗上能く臺灣の製糖

に適應す可き新機軸の考案を加へ且つ先進糖業國に於ても尙ほ應用稀なる細裂機(シュレッダー)をも裝置したるものなれば啻に建築機械の最新精巧を極むるに止らず其製糖上の效果亦顯著にして世界屈指の製糖工場と比肩するも敢て遜色なきを信ず我社獨特の長所は是等の諸點に在つて存するなり

酒精兩工場も亦建築堅牢にして裝置機械は孰れも最新精巧のものを選擇し技術上の經驗と相俟つて其製品は品質最優良たるの好評を博せり

## 鐵道

運搬費の節約と甘蔗栽培面積の增進に至大の關係を有する原料甘蔗運搬用の鐵道は各其の工場を中心とし區域內縱橫に敷設し機關車三十三臺貨車二千二百九十八輛客車八輛臺車千五百九十三輛を具備し蒸汽鐵道三百十九哩四十七鎖餘手押輕便軌道百二十八哩四十六鎖餘總計四百四十八哩十三鎖餘にして全線に電話を架設し以て新鮮なる原料甘蔗を迅速平均に各工場に集中し得るの點に於て遺憾なし又此鐵道の一部は原料製品運搬以外に旅客及一般貨物の運輸にも利用し官線鐵道屏東驛と甘棠門及里港間二十六哩三十七鎖餘(蒸汽鐵道)官線鳳山驛小港間五哩四十二鎖(蒸汽鐵道)臺中州下外車埕埔里間二十四哩四十九鎖(手押輕便)臺北州下鷺洲橋頭、新庄間及萬華板橋、項埔間十六哩六十二鎖(手押輕便)は營業線として公衆乘客並貨物の運輸を兼營せり

外にボーテブル、トラック(簡易軌條)三十二哩餘を所有せり此軌條は必要に應し簡易輕便に運搬敷設せられ得るを以て農事上極めて便利なる軌條なり

## 製品の販賣

臺灣工場に於ける原料糖TRS印直接消費糖TAB TBB TBD印及び耕地白糖FB FL FM FO印並に神戸及九州工場に於ける精製糖双目AAA EEE KKK車糖MMM OOO PPP RRR印輸出向TP TE TX TK印及富士印粉双目(グラニュ糖)並に角砂糖は我社主要の製品にして孰れも品質優良他品に超越するの聲價を博し內地到る所に歡迎せらるゝのみならず海外輸出も亦成績頗る良好なれば將來に於ける海外販路は粗糖精製糖共に頗る有望なり



又我社製出の酒精$印は本邦需要の大半を供給し之れ亦品質極めて優秀なるを以て好評嘖々たり

當社製品の販賣は總て內地海外の要所に有力の機關を具備し殊に內地は斯業に充分の經驗ある三井物產株式會社の一手販賣に委せるを以て同社は責任を以て熱心に之れに從事せり

尙我社の製糖に對して米國聖路易萬國博覽會、日英博覽會及桑港萬國博覽會より名譽大賞の金牌を受領せる外本邦各種の博覽會、共進會より數多最優等の賞牌を受け酒精に對しても亦最優等の賞牌を受領せり

本社所在地は臺灣高雄州屏東郡屏東街歸來八百七十三番地にして東京出張所は麴町區有樂町一丁目一番地(有樂館內)に在り株式名義書換並に株金拂込記入等に關する取扱ひは臺灣に在つては本社又內地に在つては東京出張所に於て之れを爲し尙關西方面に於ける株主の便宜を圖り大阪、京都の兩府下及ひ滋賀、和歌山、奈良、兵庫の四縣下在住の株主に對する配當金は大阪市三井銀行支店に於て又愛知、岐阜、三重の三縣下在住の株主に對する配當金は名古屋市三井銀行支店に於て之れを支拂ふ事とせり



# 第三　沿革

元來我國の風土は砂糖の產出に適せず沖繩並に四國は古來主要の產糖地たるも其產額少なく僅々一億斤にも達せざりしが日淸戰役の結果として臺灣の寶庫を我版圖內に併有するに及んで玆に始めて有望なる產糖地を得て我糖業史に特筆大書す可き一大變遷を生じたり而も領臺當時に在りては同島の產糖額を加ふるも猶遙かに本邦の需要を充たすに足らず依然として巨額の砂糖を輸入せるの狀態に在り明治三十一年以降我社創立の年なる同三十三年に至る三箇年の平均數字を案ずるに內地に於ける一箇年の砂糖消費額五億千七百萬斤中

內地の產額は一億三百萬斤臺灣よりの移入額は三千四百萬斤にして殘餘の三億八千萬斤は輸入せられ之れに支拂はれたる正貨は實に貳千四百萬圓の巨額に及へり

抑も領臺當時に於ける臺灣の糖業は農事製造兩方面共に擧げて農民の手に委せられ頗る原始的不經濟的のものなりき臺灣の地味氣候は概して甘蔗耕作に適應せるを以て古くより甘蔗栽培の行はれ居るに拘らず農民は甘蔗種を改良向上せしむるの途を知らず唯在來の竹蔗、紅蔗、蚵蔗等收穫量及含糖分の極めて少なき劣等の蔗種のみを栽培し毫も施肥、深耕、灌漑、排水等に注意せざれば甘蔗農業上一の見る可きものなく其製糖法たるや石造の轉子と鐵製の無蓋鍋を唯一の使用器具とし水牛之れが動力なれば甘蔗の壓搾充分ならず爲めに多量の糖分は搾殼中に殘留逸損し其製品も亦品質劣等にして精糖原料に適せず直接消費糖としても極めて低度のものたるに過きず

されば農事に在つては蔗種の選擇其他の改善を行ひ製造に於ては新式機械を採用して完全なる分蜜糖を產出するに至れば優に輸入糖を防遏して我國の需要を充たし進んで海外輸出を爲し得るの餘裕あるは識者を待たずして知り得可きの事實たりしなり

されど新領土に於ける新事業には種々不測の障礙危險を伴ふは數の免れざる所なれば斯る本島の富源も領臺後數年間は空しく遺棄して顧みられざる有樣なりき

明治三十三年に至りて遂に新式製糖工場の設立企畫あり臺灣總督府の保護奬勵の下に百萬圓の資本を以て一會社を創設する事となり玆に始めて我臺灣製糖株式會社は本邦糖業界に一新紀元を開くの天職を帶て生れ出づるの運命に遭遇せり

我臺灣製糖株式會社の設立計畫たるや斯業の前途有望なるを確認するの先見に出でしと雖も抑も亦我國富の增進に貢献する所あらんとするの趣旨を以て三井毛利兩家共他有力者の企圖に成り尙故侯爵井上馨閣下の與へられたる後援は當社として永く記憶すべきものなりとす之れが發起人として目論見書に揭名せる者は益田孝、鈴木藤三郎、田島信夫、上田安三郎、ロベルト・ウオルカー・アルウキン、武智直道、長尾三十郎にして宮內省よりは事業の趣旨を贊助せられ株式壹千株の御引受けを許可せらるゝの特典を蒙りたれば未だ此新殖民地に放資する者なき際なりしに拘らず各方面の著名なる人士は奮て此擧に贊同し株主總數九十五名を得て明治三十三年十二月十日創立總會を東京に開き玆に滯りなく會社の設立確定を告げたり

玆に於てか社長鈴木藤三郎は當時の支配人山本悌二郎と共に親しく實地を踏査し工場建設の位置を臺南縣橋仔頭庄に卜し此處に一晝夜原料壓搾能力二百五十噸の製糖工場を建設するに決し直ちに工事に着手したり

發起當時の計畫にては資本金壹百萬圓の內五拾萬圓を拂込み工場を

建設し原料甘蔗は全部農民より購入する豫定なりしも原料の供給を農民耕耘の一手に委せず進んで自ら土地を所有するの必要且つ有利なるを知り蔗園買收の爲め更らに拂込額五拾萬圓を增加することゝなし翌三十四年一月五日大株主協議會を東京に開催し此議を決し橋仔頭附近に一千餘町歩の土地を買收し此處に農場を設置せり

當時の臺灣に於ける交通運輸の狀態は現時に比して雲泥の相違ありしは玆に贅言を要せざる所にして橋仔頭工場の建築材料の供給運搬其他に關し今日に在つては殆んど想像し能はざる種々の不便障礙に遭遇せしも幸にして豫定の如く無事竣功し明治三十五年一月十五日より操業を開始するを得たり



當時の原料甘蔗は前述の如き劣等種にして農民等も亦會社に對する原料の供給に慣れず之れが爲めに原料買收及製造に幾多の困難を重ね加ふるに病魔疫癘其勢ひを逞ふし社員職工の病氣缺勤多く殆んど製造不能に陷らんとせし事も少なからず

土匪の勢力亦猖獗にして我工場の脅襲を受けし事一二回に止らず玆を以て社員職工等は製糖操業の傍ら防禦工事を施すに腐心し工場の周圍は繞らすに土壁を以てし全部の建築に防備を施し事務所の屋上に大砲を据付け得るの設備を爲し屋上並に廻廊に銃眼を穿ち一面に於て陸軍分遣隊の駐屯を乞ひ他面に於て社員中より壯丁團を組織し百有餘名の兵力を常備し劍を帶し銃を執つて死生の巷に砂糖の製造

に從事せるが如き有様にして其困難言語に絶し今に至つて往時を追懐するに殆んど隔世の感なくんばあらざるなり

斯る苦境に立ち此危險に對抗し土匪疫癘の重圍中に在つて我全部の社員職工等は猶能く低廉なる給料に甘んじ奮闘精勤能く今日の基礎を築けるもの他に多く比類を見ざる所なり

操業の狀態上述の如くなりし上に當時本邦の金融は不圓滑の狀況を呈せるに拘らず各株主は毫も遲滯なく株金の拂込を爲し明治三十六年に至り資本金總額壹百萬圓全部の拂込を結了し終始金融上に何等の支障なく着々豫定の事業を進捗するを得せしめしもの實に株主の熱誠なる後援の然らしむる所にして我株主の如く終始一貫當局者並に社員一同に有力なる後援を與へて毫も後顧の憂ひなく企劃操業に勇往邁進せしめしは我實業界に在つて類例稀少なりと謂ふ可し

爾後旱魃暴風等の爲めに多少原料甘蔗の收穫減退を見たる事あるも幸にして甚しき故障なく毎製糖期(年に依り多少の遲速あるも先づ十二月に始め四月に終るを普通とす)に於ける製造を繼續し且つ漸次各方面に建築機械を增設し橋仔頭工場の原料壓搾能力も六百五十英噸に擴大せられ皇化全島に普ねく匪族全く屏息し前述の如き困難も一場の夢譚と化し安んじて其業を營む事を得るに至り事業も亦累年整頓して豫期の成功を見るに及べり

明治三十三年度以來毎年臺灣總督府より下付せられたる補助金は三

十八年度を以て終了を告げたるが總督府は三十八年六月府令第三十八號を以て製糖場取締規則を發布し原料甘蔗採取區域の制度を確定せり

原料甘蔗採取區域制度とは一定の特別區域を限定して此區域内に生産せる甘蔗は特に其筋の許可を得たる場合の外は指定の製糖工場以外に賣渡すを得ず當該製糖工場も亦區域内蔗作者を指導誘掖し全部之れを買收するの義務を有する規定なり

茲に於て我社は將來の社運を增進せんが爲め資本を增加し一大發展を策するの好機に到達せるを認め明治三十九年八月臨時株主總會を開き資本金四百萬圓を增資して總資本金を五百萬圓と爲し同年十二



月十五日を以て增資第一回の拂込を行へり

此增資の目的は橋仔頭に四百五十噸の第二工場を新設すると共に製糖の副産物たる糖蜜を利用し之れを原料とする酒精の製造工場を建設する事及び土地膏腴にして灌漑の完備せる後壁林に農場を開設し此處に一千噸の第三工場を建設する事並に原料甘蔗の運搬設備を完成するに在りたり

從來原料甘蔗の運輸は其一部官線鐵道を利用せる外は僅かに牛車を以てしたれば時間と經費に於て失ふ所尠なからず原料甘蔗の品質を減耗する所亦多大なりしを以て蒸汽動力の鐵道を敷設し運搬設備を完全にし以て從來の不利を免れしめんと企劃したるなり

此時に至つて臺灣糖業の有利なる事漸く世の認識する所となり島内到る所に分蜜製糖工場の新設を見んとするの氣勢を示し互ひに優秀なる地區に占據せんと競へり

臺灣南部の舊阿緱廳下(今の高雄州屏東郡)は地味極めて肥沃にして古來より米産地又産糖地として名あり我社の同地方に望を嘱する久しかりしも先づ橋仔頭の工場增設と後壁林工場の新設に着手せざる可らざる必要ありしを以て急に阿緱に手を着くるの機會を得ず唯空しく後日を待つの已むなき狀態にありしが時勢の進運は我社將來の利益上最早や一日の猶豫を許さざる焦眉の急に迫りしを以て遂に斷然此有望なる阿緱區域にも亦製糖工場を建設するに決定し別に資本金五百萬圓の大東製糖株式會社を創立し我社の株主に於て其株式の大部分を引受け明治四十年三月五日創立總會を開き同社成立の上同年四月十二日開會の兩會社臨時株主總會に於て合併の決議を爲し直ちに工場の建設に着手し且阿緱廳下が交通上不便を極めし下淡水溪に架橋工事を施行し鐵道を通じて一般旅客貨物の輸送並に製品の搬出を計れり

茲に於て我社の資本金總額は一躍して壹千萬圓株式總數二十萬株となり内前述の增資及ひ大東製糖の合併に依る株式中八千株は再び宮内省御引受許可の光榮を擔へり

更らに我橋仔頭區域と相隣接して臺南廳下に豐富なる原料採取區域

を有し分蜜製糖工場を灣裡に改良糖廓四箇所を同廳下に建築經營せる資本金貳百萬圓の舊臺南製糖株式會社を合併するは我社將來の發展上頗る有利なりと認めしを以て先づ同會社株式の半數を我社に引受け次で明治四十二年八月十日株主總會の決議に依り同會社を合併する事となれり猶當時我社の所有せし前記株式は拂込額を以て株主の引受くる事として處分を了せり

我社の增資擴張斯の如くなるも猶事業發展の結果として引續き阿緱工場を擴張し同所に第二酒精工場をも併置し又車路墘に一千二百噸の製糖工場を設置し更らに原料運輸機關其他諸般の改良工事を行ふ等益々資金を要するもの尠なからず加ふるに會社の基礎を安固にし



將來の發展に備ふるの必要を生せしを以て明治四十三年十二月十四日の株主總會に於て資本金額倍加の決議を爲し總資本金額貳千四百萬圓株式總數四十八萬株となるに至れり

明治四十四年に至り臺南廳下三崁店に於て英人の經營せるフオルモサ・シユガア・エンド・デベロツプメント・コンパニーの製糖工場(能力八百五十噸)及ひ同廳下鳳山に於けるペインエンド・コンパニー所有の製糖工場(能力三百噸)を合併するの議起れり蓋し其採取區域は我區域に隣接又は介在し之れを合併せば其利便尠少にあらざるを以てなり其結果として同年十一月十八日の株主總會に於て該兩工場財產を以て特に組織せられたる資本金百五拾萬圓の怡記製糖株式會社を合併する

に決したれば我社の總資本金額は貳千五百五拾萬圓株式總數は五十一萬株に增加せられたり

此に於て我社の區域は舊臺南阿緱兩廳下の大部に亘り其要所に八箇所の製糖工場と二箇所の酒精工場を建設し延長三百數十哩の社線鐵道は縱横蜘網の如くに此區域内を貫通して原料並に製品の輸送に資し事業完備の一段落を告げしが如き觀あるも尙精製糖の工場を有せざるは畫龍點睛を缺くの憾なき能はず精粗兩糖の工場相倚り相輔けて利害共通首尾一貫の活動を爲す能はず營業上の不便不利亦尠なからざるを以て營業上至便の地位を占めたる神戸精糖株式會社の工場を金九拾五萬圓にて買收するに決し明治四十四年十二月二十日之れ



が引渡しを了せり

我社の事業は其創業以來上記の如く引續き順調に進行し第十一年度に於ては既に百二十一萬擔の製糖を產出し本邦の需要に應ずるの外遠く支那、印度、加奈陀、英國等にも輸出し到る所に嘖々の好評を博し社運極めて盛況を呈したるが遺憾にも明治四十四年八月下旬臺以來未曾有の颱風襲來し全島の農產物に大被害を蒙らしめ翌年再ひ猛烈なる颱風の襲來あり加ふるに氣候不順にして霖雨水害等の天災交々到り病蟲害も亦其害毒を逞ふし甘蔗の成育極めて不良にして蔗苗の粗惡缺乏亦之れに伴ひ且つ一面には米穀其他農產物の價額暴騰せる爲めに農民の甘蔗耕作に對する意氣全く一變し耕作放漫に流れ苦し

きは甘蔗の植付けを厭ふの傾向を生じ遂に甘蔗收穫の大減少より延て一般製糖數量の減退となり爲めに我社の營業成績も亦一般不振の波動を免かれざる事となれり

如上の不振は天災に基因せるを以て能く人力の之れを豫防し得べからざるに似たれども又人事の未だ盡くさざるものあつて此天災の被害影響を一層激甚ならしめし事實なきにあらざるなり

蓋し臺灣に於ける分蜜粗糖の製造工業たるや我社之れが開發者たり隨つて創立以後の數年間は容易ならざる困難苦辛を嘗め盡くし漸やくにして今日の如く世界有數の完全なる工場機械を有し製糖工業上に於ける技術成績も亦決して玖瑪瓜哇等に讓る所なきに到りしもの



なれども顧みて甘蔗農業の方面如何を觀察すれば第一期蔗種改良の成功其他に於て稍や見る可きものなきにあらざるも全般に於て猶幼稚の狀態を免れず之れを領臺以來の製糖工業の著しき向上發展に比較對照せば實に霄壤の差も啻ならず之れ前述の如き天災の場合に際して一層激甚の被害影響を蒙る所以にして過渡時代に於て避く能はざる順序定則を免れ得ざりしなり

されど明治四十四年以來遭遇せし此天災の打擊は能く斯業當局者を覺醒し種々の研究的實驗を積み得たれば甘蔗農業に關する發達進歩の基礎は茲に建造せられんとするに至れり

我社は茲に見る所ありて爾來鋭意農事の發達上必要なる諸種の計畫

を遂行するの方針を執り其企劃の一として大正二年七月一日埔里社製糖株式會社(資本金貳百萬圓拂込八拾六萬圓)を一株拾貳圓五拾錢拂込の我社株式四萬株即ち拂込株金額五拾萬圓にて合併する事とせり但し同社の採取區域は高地苗圃として前述の如き好適地たり將來に於ける健全なる蔗苗の供給と其更新に關し種々の利便あるを以てなり次て大正五年九月臺北製糖株式會社(資本金參百萬圓拂込貳百八拾八萬圓)を一株貳拾貳圓五拾錢拂込の我社株式四萬六千株にて合併し更に大正九年四月株主總會を開き東港製糖所及九州製糖所の建設並に將來發展の目的を以て資本金參千參百貳拾萬圓增加の決議を爲せり



尙當社沿革史上特筆すべきは當社は屢々我皇族殿下の當社工場御巡覽の光榮を蒙りたる事なり曩に閑院宮殿下には兩度御台臨遊はされ近くは伏見宮博義王殿下、高松宮殿下、北白川宮大妃殿下の御台臨を忝うせり中にも大正十二年四月二十二日畏くも　攝政宮殿下には特に阿緱製糖所へ行啓遊はされ親しく製糖作業及圃場の實況を御巡覽あらせられ當社は無上の光榮に浴したるが斯の如く各製糖會社中特に當社が此榮譽を擔ふに至りたるは永く記念すべき事なるのみならず我社が創立以來容易ならざる困難を冒して經營の率先者となり努力奮鬪の竟に徒爾ならざりしを想ひ欣懷轉た禁ずる能はざる所なりとす

之れを要するに當初壹百萬圓の資本なりし我社は玆に資本金六千參百萬圓の大會社となり製造農事其他の施設に於ける面目を一新し今や將に多額の收穫と優良なる營業成績を前途に現實せんとするの順境に進み營業益々隆盛を加へ會社の基礎愈々鞏固堅實ならんとす顧みれば我社は其筋の保護奬勵と熱誠なる株主の後援の下に我國嚆矢の新事業を邊土遠境に起し種々の困難と惡戰苦鬪し上下戮力遂に成功するを得て本邦糖業界の模範となり斯業の勃興を助長し砂糖貿易の狀態を轉換して聊か國家經濟に貢獻する所あり會社創立當初の趣旨を貫徹するを得たるは實に慶賀に堪へざる所なりとす



# 第四　役員及幹部員

創立以來過去二十餘年間に於て我社の取締役監査役及ひ相談役として就職し我社の爲めに盡くされたる功勞者諸氏の中目下在社せざる人々の姓名は左の如し

取締役　鈴木藤三郎（最初の社長）　山本悌二郎（社長）　藤田四郎（取締役會長）
陳中和　田島信夫　岡本貞然
日比孝一（兼任技師長）　圖師民嘉　村井貞之助
監査役　上田安三郎　長尾三十郎　松本常磐
津田靜一　賀田金三郎　村井吉兵衛
相談役男爵　益田孝　ロベルト・ウオルカー・アルウキン

# 現在役員及幹部員

## 重役

| | |
|---|---|
| 取締役社長 | 武智直道 |
| 専務取締役 | 益田太郎 |
| 専務取締役 | 平山寅次郎 |
| 取締役 | 草鹿砥祐吉 |
| 取締役 | 朝吹常吉 |
| 監査役 | 丸田治太郎 |
| 監査役 | ロベルト・ウオルカー |
| 監査役 | アルウヰン、ジュニオル |
| 監査役 | 神代貞三 |



## 幹部員

| | |
|---|---|
| 技師長（取締役） | 草鹿砥祐吉 |
| 商務部長 | 城戸崎廣三 |
| 總務部長 | 伊藤重郎 |
| 工務部長 | 喜多島二虎 |
| 農事部長 | 鳥居信平 |
| 營業部長 | 筧　干城夫 |
| 主計部長心得 | 長谷川末吉 |
| 商務部次長 | 玉井義助 |
| 農事部次長 | 伊藤源藏 |

| | |
|---|---|
| 橋仔頭製糖所長 | 金木善三郎 |
| 後壁林製糖所長 | 清水政治 |
| 東港製糖所長 | 橋田永誠 |
| 車路墟製糖所長 | 糸井益雄 |
| 三崁店製糖所長 | 佐藤覺一 |
| 灣裡製糖所長 | 中島與市 |
| 埔里社製糖所長 | 深山要助 |
| 臺北製糖所長 | 中村勘吉 |
| 神戸製糖所長 | 藤卷定吉 |
| 九州製糖所長 | 遠山愿 |



臺灣高雄州屏東郡屏東街歸來八百七十三番地

**臺灣製糖株式會社**

東京市麹町區有樂町一丁目一番地（有樂館內）

**東京出張所**

昭和二年八月二十五日印刷
昭和二年八月三十一日發行　（非賣品）

臺灣製糖株式會社

東京市麹町區有樂町一丁目一番地（有樂館內）
臺灣製糖株式會社東京出張所內
發行者　多田武幹

東京市日本橋區金吹町四番地
印刷者　太田芳雪
電話日本橋三七四七番

東京市京橋區北槇町八番地
印刷所　一成社印刷所

終